※教材の表紙・内容、執筆者の肩書などは、図書教材新報第 233 号（2024 年 9 月 25 日）へ掲載した当時のものです。

教材活用シリーズ　第 172 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

自分に合った進め方で学ぶ力がつく！紙とデジタルで学ぶ新しい漢字学習教材

㈱文溪堂
『漢字ＵＰ』５・６年

©Disney

（株）文溪堂
編集部　国語チーム

●はじめに　―編集方針―

今、子どもたちが一人一台手にしている端末は、個別最適な学びや主体的な学びを実現するためのツールとして大きな可能性を秘めています。一方で、自分の手で直接紙に書くことも、漢字学習には欠かせないと考えています。

『漢字ＵＰ』は、紙とデジタル、両方のよさを生かし、個々に適した漢字学習ができる新しい漢字学習教材です。

『漢字ＵＰ』のデジタルコンテンツ「漢字サーチ」では、自分が学びたいことを自分で選択し、学びを広げていくことで、知識はもちろん、自ら学びに向かう力を育て、漢字への興味・関心を深めることができます。

紙面では、「漢字サーチ」で学んだ知識を実際に書いてアウトプットすることで、漢字の定着を図ります。

『漢字ＵＰ』は、このようなサイクルを通して、子どもたちが自分の知識を深めながら一冊の学習帳（ノート）を作り上げるように、効果的に漢字学習を進めていく教材です。

子どもたちに「もっと取り組みたい」「もっと知りたい」と思ってもらえるよう、紙面にも、デジタル部分にも工夫を散りばめています。

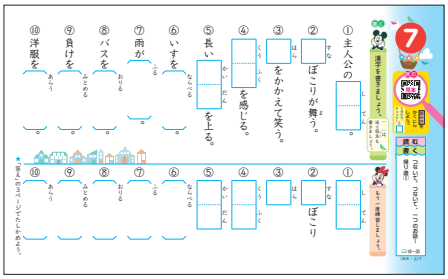
●特長

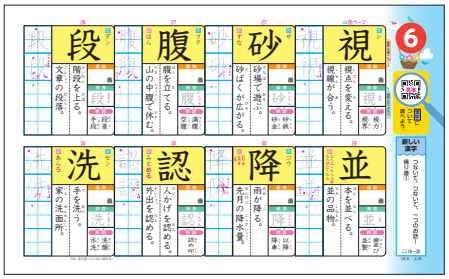
①見開き形式のページ編成

紙面は、右側（右ページ）に新しい漢字の学習、左側（左ページ）に漢字の書き問題を出題する編成にしました。新しい漢字を最大八字学習し、その後、書き問題で確かめる形式にしているため、先生が宿題として提出しやすい区切りとなっています。また、国語の授業の進度に関わらず、前倒しで漢字の学習を進めることもできます。

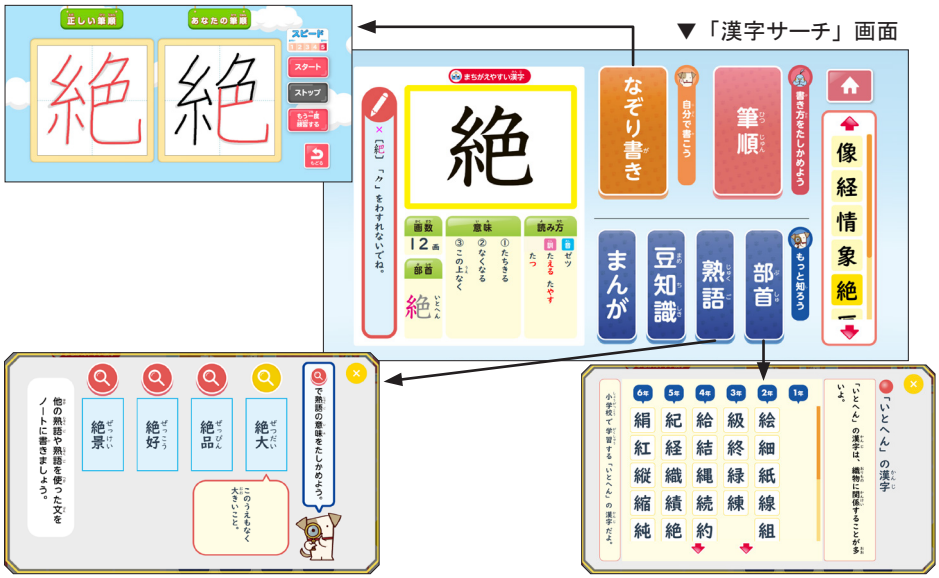
②漢字の情報が満載の「漢字サーチ」

『漢字ＵＰ』紙面の「新しい漢字」のページは、漢字の情報を厳選して提示し、部首や画数などは自分で記入する形式となっています。そこで登場するのが、デジタルコンテンツ「漢字サーチ」です。紙面の二次元コードを読み取り、学習したい漢字を選ぶと、読み方、意味、画数、部首はもちろん、漢字をどのように書くかが分かる筆


▲『漢字 UP』紙面（左ページ）漢字の書き


▲『漢字 UP』紙面（右ページ）新しい漢字

順アニメーションや、筆順を自動判定してくれるなぞり書き、その漢字に関わる四コマまんがや豆知識など、まるで漢字辞典のように漢字の情報を調べることができます。漢字学習をする際に、子どもたちが自分で調べたいことを選んで学習をすることができるため、個に応じて主体的な学びを進められるデジタルコンテンツとなっています。

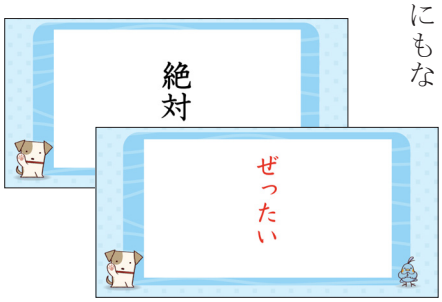


▼「漢字サーチ」画面

③教材の紙面に「漢字の読みの問題」がない!?

漢字教材は、漢字の読みの問題、書きの問題がセットになっているものが主流ですが、『漢字UP』は、紙面に漢字の読みの問題がありません。その代わりに、紙面の二次元コードから、端末で行う「漢字のフラッシュカード」に取り組めるようになっています。紙面では網羅できないすべての漢字の読み方を、声に出しながら学習することにより、漢字の基礎となる読み方をきちんとおさえ、「漢字が読める」という自信につながります。デジタルの利点をいかして、繰り返し練習することで、漢字の定着を図ることにもなります。

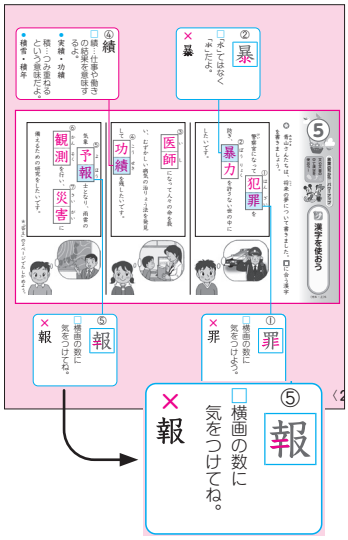
また、「漢字のフラッシュカード」を実施したことが分かるように、チェックボックスを二次元コードの近くに設けました。先生が進捗状況を紙面で簡単に確認することができます。



④別冊縮刷解答で答え合わせ

紙とデジタルを融合した学習方法を取り入れている『漢字UP』ですが、問題の答え合わせは、別冊の縮刷解答で行います。

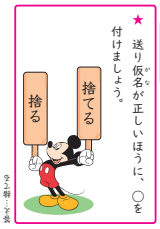
縮刷解答には、漢字を間違えたときに役立つ、漢字を正しく覚えるためのアドバイスを掲載しています。三色刷りになっているため、どこが間違えやすいかがひと目で分かります。



▲『漢字UP』別冊縮刷解答

⑤学習意欲を高めるディズニーキャラクターを紙面に使用

紙面では、子どもたちに人気のディズニーキャラクターを採用しています。表紙のデザインも、子どもたちが意欲的に取り組んでほしいという願いを込めて、躍動感のある楽しい雰囲気を演出しました。紙面のデザインや余白部分の挿絵など、一冊を通してディズニーキャラクターをふんだんに使用しています。また、ディズニーキャラクターがサポートする「漢字クイズ」もあります。漢字学習の息抜きとして、子どもたちが楽しく学習できるように工夫しました。



©Disney

今回ご紹介した、今までの漢字学習教材とはひと味違う『漢字UP』が、個別最適な学びの一助となる教材になることを願っています。